

令和5年度 京都府スーパーサポートセンター(SSC)主催 聴覚障害のある児童生徒に関わる指導者研修会 I 報告

令和5年7月

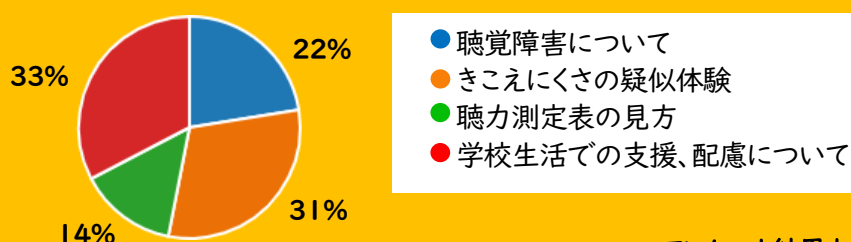
- 1 テーマ 「聴覚障害の理解と支援」
- 2 動画配信期間 令和5年5月10日(水)から6月7日(水)まで
- 3 方法(開催形態) YouTubeによる動画限定配信
- 4 内容 「聴覚障害について」「きこえにくさの疑似体験」「聴力測定表の見方」「学校生活での支援、配慮について」
- 5 講師 京都府スーパーサポートセンター(SSC)聴覚支援担当

山城教育局管内(京都府南部地域)の先生方を対象に、聴覚障害のある児童生徒への指導・支援に関わる内容の研修会を実施しました。昨年度と同様にYouTube動画限定配信で実施し、29名の御参加がありました。

動画では、きこえにくさの疑似体験や聴力測定表の見方のほか、学校生活上の支援や配慮、児童生徒のセルフアドボカシーについて、SSC聴覚支援担当よりお話ししました。

御視聴いただいた先生方からは「難聴の疑似体験がよかった」「支援の方法が参考になった」という御感想をいただくなど、聴覚障害児への理解を深めていただけたものと感じております。御視聴いただいた先生方の御意見・御感想をもとに、今後もよりよい研修会を実施できるようにスタッフ一同取り組んでいきたいと思っております。

参考となった項目



個々への支援

座席の配慮 *先生の声がかきこえやすい席 *周りの動きが分かる席	教師の話し方 *ハキハキと話す *しっかりした声 *復唱をする
教室のルール(発言方法等) *発言者を見る *静かにする	板書 *ちよっとしたことメモをする

配信動画より【一部抜粋】

研修会(動画視聴後)の御感想【一部抜粋】

毎年、視聴をさせてもらっているが、その都度、聞こえにくさの体験をすることの大切さを感じる。こんなふうに聞こえているということがわかると、どういう支援をすることが必要なのかわかる。また、自分から伝えることができる力をつけることが必要だとあったが、そういう視点をもって支援していくことも重要だと思った。

聴覚障害のある生徒への支援について、研修の最後にあった「子どもが主体的にできる力を伸ばす支援や手立て」というところで考えさせられました。教師が先回りするのではなく、自ら困っていることを伝える力をつけるということも重要なことであると考えながら、生徒にとって必要な支援や手立てを考えていかなければならないと思いました。今後活かしていきたいです。